

Differences

Between Buddhism & Christianity

仏教とキリスト教の違い

パツィー・オダ 著
岡本 十三江 訳

仏教とキリスト教の違い

Differences Between Buddhism and Christianity

パッツィー・オダ 著

岡本 十三江 訳

Differences Between Buddhism and Christianity
Copyright English 2007 / Japanese 2008
Available through www.awomansspecialtouch.com

創立者の伝記

仏教

シュダールタ・ゴータマは紀元前 563 年にインドで、豊かなヒンズー教の王子として生まれました。彼が生まれた時、占い師はこの幼子は偉大な宗教指導者になるか、または偉大な王になるであろうと予言しました。シュダールの父王は、息子が偉大な王になることを望み、宮殿の敷地内で贅沢と快適な環境の中で育て、生活のあらゆる苦しみから彼を守りました。

シュダールタが初めて病人、老人そして死人を目にしたのは、29 歳になった時でした。人々の生きる苦悩目の当たりにし、衝撃を受けた彼は、妻、子どもそして宮殿生活を捨てました。なぜ人は苦しみ生きるのか求道心に目覚めたのです。

6 年間、シュダールタ・ゴータマは、祖師の下で学び、過酷な訓練を自らに課しました。そしてついに瞑想を通してシュダールタの心は“実相”（仏教用語-すべてのものの、生滅変化する仮の姿の奥にある真実の姿）に目覚めたのです。このようにして、シュダールタ、釈迦牟尼仏陀は、悟りの境地を得ました。彼は、残りの人生で、人々がどのように悟りを得るかを説いたのです。80 歳の時、シュダールタは食べ物の毒が原因で亡くなりました。

キリスト教

イエス・キリストは、紀元前 4 年前にベツレヘムの馬小屋で貧しいユダヤ人の両親のもとに生まれました。

イエスが生まれる何世紀も前に、神の預言者たちは、イエス・キリストの奇跡的な誕生、生涯、伝道、十字架の死、そしてよみがえりについて正確に何百という詳細な預言をしました。

天使は、乙女が神の御子を生むであろう、そして救い主という意味であるイエスと名づけるであろうと告げたのです。

イエスはナザレで、人々のさまざまな問題や苦しみを経験して成長しました。イエスが青年になった時、長老たちはイエスの知恵に驚きました。成人してイエスは大工となりました。イエスは 30 歳になった時、神の国と天国について述べ伝え始めました。

33 歳の時、イエスは、自分が罪の刑罰から人類を救うために天から遣わされた神の子であると主張したので、ローマの十字架につけられたのです。

死んだ後、イエスは墓に葬られました。三日後に、イエスは自分で預言したとおり、死からよみがえりました。何百人もの証人の前で、天に戻られ昇天しました。イエスの生涯は人間の歴史の中で、最も実証された伝記です。

聖典

仏教

釈迦牟尼仏陀(シャカ)の教えは、活字になる以前約500年間は、記憶したものを口述で次の世代に伝えてきました。仏陀の教えの一番古い記録は、タリピタカ・バーリ語経典の中にあります。その中には、仏陀の法要、精神的、肉体的存在の意義、そして僧侶たちの規律、訓練が記されています。仏陀は、権威ある神聖な言葉やヒンズー教の宗教的儀式を否定しています。仏陀は、自分の生まれや教えが神聖であるとは主張していません。仏陀の従者たちは、仏陀とその教えに責任を取ってきませんでした。

仏教は、他の国々に広まって行った時、大きく変化していきました。仏陀の初期の教えにさまざまな解釈が加えられました。また、仏経典には新しい分冊が付け加えられました。外国の宗教的儀式や習慣が、仏教伝統に混ざっていきました。

現在の“仏教”は多くの形式的儀式や宗派そして教えがあると理解されています。

キリスト教

聖書は神の言葉です。その中で、神はご自分を創造主であると宣言し、ご自分が造られた人間に対する愛を明らかにしています。旧約聖書には、人間を罪から救うために、神のおつかわしになる救い主について、詳細に預言が記されています。新約聖書は、神のひとり子イエスを、旧約聖書の中のすべての預言を成就した方として証言しています。

聖書を書いたのは普通の人ですが、すべてのみ言葉は、神の靈感によって書かれました。神の言葉は“生きていて”、“心に語りかけて”くれます。それは、生活の中のあらゆる困難な状況や決断を通して、今も人々を導いてくださいます。

神は、聖書を“真理の言葉”と呼んでいます。その中で神は、人間に何が不誠実であるか気付かせてくれます。そしてご自分の変わらない絶対不変の真理を啓示しています。

神は、この真理の書を変えたり、付け加えることを厳しく禁じています。しかし、たくさんのカルト宗教は、人を惑わせる教えを聖書に付け加え、多くの人々を神から引き離しています。彼らの教えは、天にて神によって裁かれ、人間に永遠のいのちを与える真理の教えに対して、神に申し開きをしなければなりません。

究極的な真実

仏教

悟りの境地とは、仏陀がどのようにして、またなぜその道、すなわち正覺（すべての真相を知る無常の知恵。仏教における最高の悟り）に目覚めさせられたかということです。

仏陀は、宇宙にあるすべてのものはいつも存在していたと言います。すべてのものは、“初めのない過去”から虚しい状態に回転し続けています。

人間をはじめ、この世に生きているすべてのものは、靈魂の生まれ変わりで存在しています。輪廻説とは、生と死の後、他の生を受けて終わりなく再生していくことです。

宿命の法則（原因と結果の法）が宇宙を支配しています。

人は善悪の行動によって生ずる宿命の存在です。死後は因果法則により、その人の過去の生活の行いの良し悪しで次の輪廻が決まるのです。

人生の不平等や苦しきは、その人の現在または過去の生活の悪い行いが原因なのです。

（輪廻説 --- 生き変わり死に変わりすること。靈魂が転々と他の生を受けて、迷いの世界をめぐること）

キリスト教

イエスは、絶対的な真実は唯一真理なる神であり、いつも存在している三位一体 --- 父なる神、子なる神、聖霊なる神の中に見いだせると言っています。

イエスのご自分が“子なる神” --- 見えるものと見えないもの、天地万物の創造において、“父なる神”と“聖霊なる神”と同等であり一体である --- と言っています。

イエスは、見えない神がどんなお方かを“現す”ために人のかたちを取って地上に来られたと言っています。

地上にいる間イエスは、病気、死、悪魔そして自然界の上にご自分の権威を現し、多くの奇跡を行いました。イエスは病人をいやし、死人を生き返らせ、悪霊を追い出し、嵐を静め、そして水の上を歩きました。

最も大切なことは、イエスが人類に神の変わらない愛を示すことでした。イエスは、ご自分の命を十字架の上で犠牲にして、人間が神を個人的に知る道を開いたのです。イエスは、聖なる、絶対者であられる神と真実な素晴らしい交わりを妨げている罪の代価を、十字架の上で、ご自分の死をもって払ってくださいました。

人間の人生の目的

仏教

仏陀は、人間には目的もなければ魂もなく、自分自身すらないのであると考えました。伝統的な教えにおいては、心は、自分自身のあり方や精神の錯覚なのです。しかも究極の真実には、自分自身や精神は存在しないのです。

仏陀は、すべてのものはうつろで、生来存在することが空虚であることを悟り、それが仏陀を究極の真実へと目覚めさせました。結局のところ誰もがそして、すべてのものがそれ自体は何の独自性もなければ目的もない —— 海の水一滴のようなものです。

人間は、意味のない宿命的な存在で、次々と一時的な体に生まれ、死と生をくり返すべく定められています。宿命の法が、自然の成り行きにより、その人の精神や知性を次ぎの体に移行します。それは、人が自然の成り行きにより、過去と現在の行動の中で積んできた結果の姿です。仏陀は、人々にどのようにして宿命の重荷に耐え、超えるか、そして虚しい（実質のない）究極の真実に入るかを説きました。

キリスト教

イエスは、神を知りその交わりの最高の目的のために、神が人間を創造したことを知っていました。人間の最も大きな喜びは、神によって愛されていること知り、神を愛することです。

人間だけが、神のように霊（心）を持つ者として造られました。だからこそ人間は神と霊（心）と霊（心）の交わりを楽しむのです。

神は、おのおのに、その人独自の個性的なたましい（心、感情、意思）を与え、自由に考え、感じ、愛を選ぶようにされました。一人ひとり、その人唯一のDNA、指紋そして個性を持って造られました。人間は、神が与えてくれた賜物（タレント）と願望を持って生まれ、それによって神がその人の人生に与えている夢の実現へと導かれていくことでしょう。

しかし、すべては、人がそれぞれ聖なる命、力、知恵そして善意の内なるよりどころとして、神の存在を認め、信じているかどうかにかかっています。イエスは、ぶどうの枝の実り豊かさは幹に頼っているように、人も生命（人生）の実りを、神に信頼しなさいと教えています。

善 と 悪

仏教

仏陀は、人間は抽象的、非物質的な霊の世界に住んでいると考えました。モラルの良し悪しは非物質的な世界にはないのです。

この非物質的世界は、人の行動を支配している人間性のない宿命の法（業の世界）によって成り立っているのです。

良い行いに対する報い、または悪い行いに対する罰は、人が熱心に悟りを得ようと努力するか、良心の呵責を無視し続けるか、その人の宿命（業）によって左右されると説いています。

仏陀は、悪い業の主な原因は無知 —— 物事の真理を知らない—— からですと言っています。

いのちとは、一時的なものであり虚しい幻に過ぎない。そのことを知らないで、人々は愚かにも心配することや、物欲にとらわれ、財産など持ち続けることを望むのです。大切な家庭や家族の生活でさえ、悪い業や苦しみの原因となります。

仏陀は、苦しみを逃れるためにすべての願望や、はかないものへの愛着を捨てなければならないと教えました。

キリスト教

イエスは、“善 悪”は、その人の心が神のものかサタンのものかによると言っています。

サタン（悪魔）は、かつて、天にあって造られた天使でした。しかし反抗心と傲慢さの故に、彼は神と同等になろうとして、追放されました。

サタンは、“偽りの父”です。そして神に愛をもって造られた人間を破壊したいのです。

超自然のあざむきをもって、悪魔は人々や、国々を数々の罪、過ち、悪行、破壊へと導いています。

神に最初に造られたアダムとエバは、サタンにあざむかれて、神は必要でないと背をむけ、サタンの声に聞き従い、自立の道を選びました。この選択が神に対する“反逆”であり、罪なのです。それは、人間の心を永遠に神の敵であるサタン（悪魔）と結びつけたのです。

罪は、人間の心に悪魔の悪しき性質を持つものとし、もはや良い行いをすることをできなくしているのです。人々は、外側では良い行いをしているかのように見えますが、彼らの心の状態は、神に対して、そして神の真理の言葉に抵抗しているのです。

束縛からの自由

仏教

仏陀は、人々を無知な心から解放し、真実に目覚めさせるために教えを説きました。彼の最も有名な教えは、**四つの尊ぶべき真理と八正道**です。

四つの尊い真理(四諦-してい)

1. 人生は苦しみです。
2. 苦しみの原因は、一時的なものへの願望と愛着です。
3. 苦しみは終わらせることができます。
4. 苦しみの終わりへは、自己修行によって達成できます。(八正道 - 修行への道)

八正道は、自己修行への実践的な教えを説いています。それらは、正しい見解(正しく無常を観察)、正しい意思(無我こそ自己の真実)、正しい言動、正しい行動、正しい生活、ひたむきな努力、注意深さ、集中力です。

瞑想と仏陀の教えに従うことで、人々は良い業を作り出し、悪い業を避けることができると教えています。それは、何百回もくり返さなければならないかもしれませんが、人は涅槃(ねはん)の境地に入ることができ、もはや生まれ変わりや苦しみにあうことはないのです。

(涅槃 --- 一切の煩惱(ぼんのう)から解脱(げだつ)した、不生不滅の高い悟りの境地)

キリスト教

イエスは、人間を罪の重荷、サタンや地獄から自由にするために、ご自分のいのちを与えました。神は、天において神の支配より自分たちを高くしようとしたサタンや悪霊たちのために、「地獄を用意しました。しかし、神に造られた人間も、神に敵対し、サタンの傲慢（ごうまん）な反逆に加わったのです。サタンと悪霊たちはまた、神を離れ、自分たち自身が、“神”となりました。

人間がサタンと同盟を組んだとき、人はサタンの悪しき罪の性質と自分を地獄への、ほろぶべき運命に定めてしまったのです。しかし、神は、ご自分が造られた人間が永遠に地獄で苦しむことを望んではいません。神は愛のゆえに、人類を救うために神のひとり子、イエス・キリストを十字架につけることを決断しました。神は、罪のない神のひとり子に、全人類のすべての罪を置き、イエスを裁き、罪あるものとし、**すべての男、女そして子ども、すなわち全人類のために十字架につけたのです。**

神聖なイエスの流された血とその死は、人間を罪とサタンと地獄から自由にするために、すべての代価を払いました。そして、イエスを個人的な救い主と信じるすべての人に自由を与えました。しかし人間には、イエスを救い主と信じるか、または否むかの自由意志、選択が与えられているのです。

力の源

仏教

仏陀は、自分の死にのぞんで、弟子たちに悟りの境地に入るために、自力のみに頼るように勧めました。自己の力のみが輪廻（りんね）から人々を救うのだと言うのです。

仏陀の死後、弟子たちは自分たちの力で仏陀の教えを広めていきました。弟子たちのそれぞれの解釈は、仏教の宗派の発展の多様性にも、現れています。ある宗派は、自力本願を否定しています。

この宗派は、阿弥陀仏陀と呼ばれる架空の神を作りました。阿弥陀仏陀は何億年も前に存在して、阿弥陀の力のみで、輪廻からすべての人を救い出すと誓ったのです。唯一しなければならないことは、阿弥陀の名前をとまえ、阿弥陀の情け深い誓いに信頼することです。

死後次の体に生まれ変わる代わりに、阿弥陀を信仰している人は、阿弥陀の浄土の地で生まれ変わります。浄土はたやすく悟りと涅槃の境地に到達できる、この上なく幸福な場所です。

（阿弥陀 --- 西方浄土に住み、一切の人々を救うと誓いをたてている仏。これを念じ、その名を唱えれば死後、直ちに極楽浄土で生まれ変われるという。浄土真宗の本尊）、（浄土 --- 仏がいる清らかな国）

キリスト教

罪は、人間が地獄から自分を救う力のない原因となっています。しかし、人間に対する神の変わらない愛は、私たちに神の恵みの贈りものとして救いの道を開いてくださいました。

この贈りものを受け取るには、その人が心の中にイエスを救い主としてお迎えし、神に罪の赦（ゆる）しを願うことです。イエスを救い主として迎い入れることは、心と意思の行動です。人の感情では、神の超自然的な奇跡を目に見える現実として理解できません。しかし、心は、信仰により神を信じ、奇跡を受け入れることができるようになるのです。

人が信仰により、イエスを受け入れるとすぐに、その人の心の中に、神の力である、永遠のいのちの誕生が始まります。この奇跡は、“神によって生まれる”または、“生まれ変わる”という体験です。

“神によって生まれる” 体験をした心は、神聖な喜びと神の存在の平和を感じるようになります。神と共にいることが現実となります。神と語らうことが自然になります。天国は我が家です。

この地上において、罪やサタンに打ち勝つために、“神の子どもたち”は心の中に住んでくださっている聖霊の力によって生きなければなりません。

人類の永遠の目的

仏教

仏陀は、永遠不滅の地はないと教えています。しかし一時的なたくさんの段階の天国や地獄があります。

死後、業の法則は、その人の精神的エネルギーを、次の一時的な体に移動していきます。

人の次のいのちの形は過去の生活で積み上げた行い（業）によって決まります。生前の心のあり方や生き方は、次の6つの生まれ変わりの世界に区分されます。

- (1) 神々 —— 極楽浄土
- (2) 半神 —— 積極的に努力と善行を積んだ人
- (3) 人間 —— 幸福と苦悩
- (4) 餓鬼 —— 満たされない状態
- (5) 動物 —— 本能で生きている
- (6) 地獄 —— 継続的な苦しみ

仏陀は、涅槃に到達すれば、一時的な存在は終わるのであろうと説いています。涅槃は場所ではなく、すべての無知、願望そして苦悩を“消し去る境地”と言っています。

涅槃に到達すると、心は虚しい究極的真実の中に永久に消えてなくなるのです。

キリスト教

イエスは、人は地上に生まれ、一度死ぬことと、その後裁きがあると言っています。イエスは、天国と地獄を人間にとって実際に存在する永遠の目的地であると説明しています。

イエスは、人間の罪のために裁かれ、有罪の判決を受け、死に渡されました。ですからイエスを信じている人は誰も裁きにあう必要はなく、地獄から救われています。

死ぬ前にイエスを自分の救い主として、心に迎え入れている（信じている）人々は、神の裁きや、地獄に行くことはありません。その人は、死ぬことすらありません。地上で最後の呼吸をするとすぐに、神がその人を天の“家”に迎え入れてくれます。

イエスは、天国は永遠のいのちを持っているすべての人にとって、輝かしい所だと言っています。そこでは、人々は新しい天の体を与えられ永遠に生きるのです。

ついに人々は、罪から、サタンから、病から、痛みからそして死から永遠に解放されます。人々は、永遠のいのちを頂いて、天国にいる家族に、友達に再会するでしょう。何よりもまず、人々は神を知る、究極の絶対の真理に入り、神が初めから用意してくださっている、いのちを楽しむのです。

要約手引き

仏教

仏陀はご自分のことを何であると言っているのでしょうか？

仏陀は、自分は自力と瞑想を通して、悟りに到達した普通の人間であると言っています。

仏陀の人生観は、何だったのでしょうか？

仏陀は、人生は苦しいもので、意味のないものであり、はかないものであると考えました。

また人は、業のあるものであり、常に存在していて、常に輪廻を繰り返しているのである。人間はたましいがなく、自己もない生来むなしのものである。

仏陀の生涯の使命は何だったのでしょうか？

無知が人々に、輪廻と苦悩を負わせていると考えた仏陀は、どのようにして悟りを得、そして永遠の輪廻と苦悩から逃れることができるかを人々に教えるために生涯をささげました。

仏教徒とは何ですか？

仏教徒とは、涅槃に導いてくれる仏陀の教え、儀式の実践、瞑想、そして自己修行によって悟りの境地に入れるよう努力している人です。

キリスト教

イエスは、ご自分のことを何と言っていますか？

イエスは、人類の罪を救うために地上に来た神の子であると告白しています。

いのちについて、イエスの考え、目的は何でしょうか？

イエスは、すべていのちあるものは、神によって始まり、そして目的があると言っています。人間は、神によって造られ、それぞれがかけがえのない一人であり、霊的に神を知る能力が与えられています。

イエスの生涯の使命は何でしたか？

罪が、人を神から引き離し、サタンの奴隷としたのです。イエスは、人間の罪の代価を払うために、ご自分の命を犠牲にしました。それによって人間をサタンから解放し、“神によって生まれる”新しい心を与えるために来ました。

クリスチャンとは何ですか？

クリスチャンとは、イエスを個人的に、罪からの救い主と受け入れ、“神によって生まれる”経験とその確信を持った人のことです。その人々は、救いを、神からの贈りものとして無代価で、信仰のみにより受け取りました。自分の善行や、神や天国に近づくためにさまざまな活動が真のクリスチャンにするものではありません。

著者について

著者 パッツィ・オダは、子どもの頃にクリスチャンになりましたが、仏教徒の家に育ちました。「結局のところ、すべての宗教のいきつくところは、仏教もキリスト教も基本的には同じものなのだ。」と聞かされて育てられました。彼女は仏教とキリスト教の違いを、56年間もの間、肌も持って経験し、その真実の探求に、40年間の歳月をついやしました。「仏教とキリスト教の違い」のこの小冊子は、多くの誠実な人々が、すべての宗教は、人を良い場所にたどり着かせてくれると思ひ込み、どんな宗教を信じていても良いのだということへの深い懸念の思いから書かれました。著者の自伝、「愛の行方」には、彼女が子ども時代にイエス・キリストを信じるようになった経緯が書かれています。

訳者について

訳者 岡本十三江はカナダのアルバータ州にあるプレアリーバイブルカレッジを卒業し、アメリカのミズリー州に本部を置く、Christian Women's Clubs の働きに2年就き、女性伝道に重荷を持つ。またEnriched Living Seminar の日本語訳に携わる。現在日本在住。